

# 蕨の会

vol.17  
~Bの望む世界~

創造力の果て

導かれる力

繋がる力

必要最小限の支える力

なぜそこに向かうのか、  
どうしても納得させられてしまう。

——その力がある。

一音に託す

全てを乗せる

各楽章すべてが意味を持って繋がる。

ベートーヴェン  
ヴァイオリンとチェロの為の二重奏曲  
「2つのオブリガート  
眼鏡付き」 Es-dur WoO.32  
佐々木 真史 〈ヴァイオリン〉  
阪田 宏彰 〈チェロ〉

ベートーヴェン  
「彩られしリボンもて」 op. 83-3  
「想い」 WoO. 136  
大平 康子 〈ソプラノ〉  
加納 麻衣子 〈ピアノ〉

今 拓野 〈作曲〉  
ヴァイオリンとヴァイオラ、詩とピアノの為の作品  
「曇り日のオホーツク海」 詩：北原白秋  
鈴木 まどか 〈ヴァイオリン〉／佐々木 真史 〈ヴァイオラ〉  
大平 康子 〈歌〉／加納 麻衣子 〈ピアノ〉

ベートーヴェン  
「ヴァイオリンソナタ第4番」 a-moll op.23  
鈴木 まどか 〈ヴァイオリン〉／加納 麻衣子 〈ピアノ〉

ベートーヴェン  
「ゲレルトの詩による6つの歌曲」 op.48  
広川 恵 〈アルト〉／中村 匡宏 〈ピアノ〉

蕨の会企画・特別プログラム

ベートーヴェン

弦楽四重奏曲  
第9番 c-dur op.59-3  
《ラズモフスキー第3番》

糸弦楽四重奏団

第1ヴァイオリン 鈴木 まどか  
第2ヴァイオリン 中島 久美  
ヴァイオラ 佐々木 真史  
チェロ 阪田 宏彰

2013. 10. 24 (木) MUSICASA  
ムジカーザ

開場／18:30 開演／19:00  
入場料／前売券 ¥3,000  
当日券 ¥3,500  
学生券 ¥2,500  
(全席自由)

## ～Bの望む世界～

今年の蕨の会では、「Bの望む世界」と題し、ベートーヴェンの偉大な音楽の世界に挑む。  
音楽芸術に関わる全ての人々が彼の存在を無視出来ない。  
決して避けて通る事は出来ない。

彼の音楽作品には、演奏家を納得させる力がある。  
“作曲家”は新しい音楽を創造し、“演奏家”はその新しい音楽と世界、新しい技法や奏法を堪能する。  
それは演奏者にとって、決して簡単な事では無く、努力と苦悩を共にするものであった。

作曲家ベートーヴェンの作品は、当時の他の作曲家に比べ、技術的にも音楽的にも遥かに難しい作品であり、  
演奏者に与える苦悩は相当の物であったと考えられる。

にも関わらず、現代に至るまで彼の作品が演奏され続ける理由は、  
ただ一つ、その作品の持つ意味、内容に圧倒され、どんなに難しくても、  
演奏する事に意義がある事を実感させられてしまうからである。  
つまりその作品に魅せられてしまうのである。

ある演奏家が、こんな言葉を口にする。  
「彼の作品は演奏者に無理を強いる…」

その通りである。

無駄な音や、飾った音などの一切を排除し、一音に大きな意味を託すのである。  
存在する音それぞれに異なる意味と重さ(深さ)を持たせ、そして其の表現の為に、色と表情を強要するのである。  
彼をそして音楽を良く理解する演奏家程、その表現方法に苦しめられ、もがく事になるのだ。

そして一音一音の繋がりから、モチーフそれぞれの繋がり。分節のつながりから、各楽章同士の繋がりまで、見事に意味を以て連結し、全楽章の構成を司るのである。どの作曲家の作品よりも、その各々の部位が強く引き合い呼応し、曲全体として強烈な個性となって表現されるのである。

彼への理解が深まれば深まる程、その演奏方法に更に苦しめられることになる。  
しかしそのもがきと苦しみは大きな力となり、音楽への扉を開く。  
『Bの望む世界』が少しでも表現され得た時、それは歓喜となって体の中を走り抜けるのだ。

この一瞬のときめきの為に、彼の楽譜は存在し、  
無理を強いられる理由は、“納得”に変わり、  
苦悩は“喜び”へと変わってゆくのである。

……「芸術、本来の姿」と言える。

それを理解する者が次の伝道者となり、偉大な者たちの意思に導かれ、芸術は引き継がれて行くのである。  
この継承を未来永劫に渡って紡いでゆくのは、人間の持つ「感性」と「創造力の豊かさ」にかかっている。

蕨の会代表 今 拓野

## MUSICASA

ムジカーザ

所在地 東京都渋谷区西原3-33-1  
交通 小田急線・地下鉄千代田線  
「代々木上原駅」東口より徒歩3分  
主催 蕨の会実行委員会  
公演についてのお問い合わせ：  
今(こん)拓野 Tel&Fax. 04-2945-2881

